

## 第 63 回宝塚市病院事業運営審議会議事録

日時:令和 8 年 2 月 13 日(金) 14 時 00 分~16 時 00 分

開催場所:宝塚市立病院 講堂 1

出席委員(敬称略) 12 名  
医療機関等の代表者 明渡 寛、那須 輝、藤田 貴彦、森本 愛  
公共的団体の代表者 山本 敏晴、松村 孝三、石村 陽一  
知識経験者 阪上 雅史  
関係行政機関の職員 野原 秀晃  
一般公募 岡光 幸代、洲上 ゆかり、板東 克子

欠席委員(敬称略) 2 名  
知識経験者 大迫 しのぶ、梅田 智子

1. 開会
2. 市長挨拶(森市長)  
(挨拶文の読み上げ)
3. 委嘱状交付等

(1) 委嘱状交付

森市長より委嘱状の交付。

(2) 会長・副会長選任

(3) 委員紹介

委員 会長には、前任期期間も会長を務められ、現在諮問中である、新病院整備基本計画のこれまでの経緯を熟知されている、阪上委員をお願いし、副会長には本日欠席されているが、兵庫県看護協会常務理事あり、看護師の視点を活かした審議が期待できる、大迫委員に副会長をお願いしてはいかがか。

事務局 ご意見や他に推薦がある場合はご発言をお願いします。

事務局 ご意見等ありませんでしたので、会長は阪上委員に、副会長は大迫委員に選任致します。  
本日欠席の大迫委員には内諾をいただいております。

会長 会長にご指名いただきありがとうございます。前回の任期でも会長を務め、ある程度流れを分かっていると思っている。前の任期の議論においては、市立病院は急性期病院であったが、森市長が就任され、たからづかモデルと称して、介護や保健といったいくつかの施設と協力して各機能を高めていく構想であると自分なりに理解している。そういった議論を深めたう

えて基本計画を完成させたいと思う。また、再任の委員は6人、新任が8人、色々な分野の方に集まっていたらいい。新たな意見も出てくると思っている。基本計画をよりよいものにしていきたい。

#### 4. 議事

会長 議事の1から3は市立病院がどういう病院かを改めて知ってもらう内容である。また、審議会規則第2条に審議会の目的が書いている。審議会は、市長の諮問に応じて、宝塚市 病院事業についての重要な事項を調査、審議し、答申するものである。

会長 P31が諮問書、P33以降が基本計画の策定途中段階のもの。これに医療・福祉・介護・保健の考え方を盛り込んだものを作るという流れ。

会長 それではまず、市立病院の概要の説明をお願いします。

##### (1) 市立病院の概要について(岡田病院長より資料3の説明)

会長 基本方針の最後に「公共性と経済性を意識した病院経営に努めます。」とある。基本方針に経営といった言葉を使うのは今回からか。

事務局 基本方針に初めて経営という言葉を入れた。

会長 病院経営についてはよくニュースになっているところだが、公立病院の7割~8割は市からの繰り出しを受けても赤字。今後よく考えていく必要がある。

事務局 12 沿革に寄附金のことを記載しているが、R6年3月とあるが、令和7年3月の誤り。

##### (2) 前回(第62回)議事録の確認(意見なし)

##### (3) 経営状況について(事務局より資料5~6の説明)

ア 令和7年度の経営状況について

イ 令和8年度宝塚市病院事業会計予算(案)について

会長 P18について、令和7年度の前半までは頑張っていたが、後半に悪くなっている。

原因はどのように考えているか。

事務局 入院患者数が想定より少なかった。費用についても、人件費の増や薬品費、材料費高騰の影響を受けている。

委員 企業債はいずれ償還しないといけないものか。

事務局 全て借入金なので将来返す必要がある、経営改善推進事業債6億7千万円は、15年で返済する必要がある。

会長 P24に産婦人科医師3名増員とあるが、周産期は扱わない。婦人科のがん治療がメインとなることを補足させていただく。

委員 入院患者が増えない理由や増やすための対策は、給与は人事院の勧告に従うのは分かるが、これからも増えると思う。給与、その他経費も含めての対策はどのように考えているか。

事務局 当院は稼働病床数が328床ぐらいであり、1日あたり290人の入院患者を受け入れ、稼働率88%をクリアできれば収支均衡できるとして目標設定していたが、10月以降落ちて来てしまった。原因について考えたが、正直何故下がったのかは現状ははっきりしていない。1点、救急医療の#7119として、救急者を呼ぶか悩む方のコールセンターが始まった。結果、救急の搬送件数がコロナ後右肩上がりだったが、秋頃から減っている。確証はないが、当院の入院患者数への影響はあるかもしれない。今後も地域の診療所周りには継続して取り組みたい。

もう1点、人件費については人事院勧告に従うしかないが、取り組みとして、当院では従来から正規職員が足りない診療科に大学から応援医師の派遣を受けている。これについて総額3億円ぐらいの経費がかかっていたが、診療科の先生と調整し、人員を減らすことで、1割程度の3千万を削減した。また、働き方改革の一環として、17時以降の研修会などを時間内に実施することを徹底し、時間外手当を減らす努力をしている。今後も継続していく。

事務局 人件費について補足です。人事院勧告は、近年プラス改定で令和6年度、令和7年度で約2億円ずつ負担が増えた。令和6年度は診療報酬改定により、ベースアップをした病院には1億円程度補填された整理である。来年度の診療報酬改定でも同じような動きがあるとは思っている。

会長 入院患者は救急患者と予約患者に分けられる、救急患者は救急応需率を増やすことで増える。予約患者は初診患者を増やさないと増えない。入院患者を増やしていくには、両方を増やす必要があり、それぞれ全く別物である。人件費については、m3を見ていると、一番大切な入院基本料が1日1700点ぐらいで8%から10%ぐらい上がっているはずである。初診料は上がらない。再診料は1点だけ上がる。今後も継続して努力し、少しでも良い病院にしていきたい。

#### (4) 新病院整備基本計画の策定再開に向けた動き(事務局より資料7の説明)

委員 市の事務事業評価委員会に参加していた際、看護学校についての話があった。看護学校はかなり老朽化していたはずだが方針はどうなったのか。

事務局 看護学校は平成7年に建築。築30年ぐらいの建物である。来年度以降も外壁改修

などで継続して使っていく方針である。

委員 病棟再開について、看護師の確保はどのような状況なのか。

事務局 現在は1病棟を閉鎖しており、6床室がまだある状況。患者様のために、せめて4床室にしていこうと思っている。看護師は充足しつつあるが、当院の業務に慣れていただく期間が必要であるため、令和8年7月頃には病棟を拡大できると考えている。

会長 建物は通常鉄筋コンクリートであれば60年~70年使えるが、病院は昼夜問わず使っているため、40年ぐらいが目安。看護学校は30年なのでまだまだ使えると思う。病院は配管や空調周りがボロボロになっているので、安全で質の高い医療を提供するために建て替えが必要な状況である。

委員 病院既存棟は解体せず官民連携で活用する方針とある。既存棟を残すというのは、相当な大きさの建物を残すということ。病院は建物を残すことによるランニングコストをどのように考えているのか。官民連携という言葉が先走っていると危ないと感じた。

事務局 ご認識のとおり、新病院は第一駐車場に建設予定、隣の健康センターは先行解体する予定。このあたりを利用して工事に着手する。がんセンターの隣にある外来棟には医局、管理などの事務所機能を改修して設置することを考えている。検査棟から北棟までの部分を既存棟と呼んでいるが、このあたりは解体せずに官民連携事業として利用できる部分は利用していきたいと考えている。解体するにはかなりのお金がかかってしまう。病院は40年程度で配管類の設備が耐用年数を超えて使えなくなる。現病院の運営を続けたままの大規模な改修が難しい事情があるため、新病院にほとんどの機能を移すことで、既存棟を改修することができるようになる。既存棟は耐用年数も調査したうえで、スケルトンで改修することも含めて、どれぐらい活用できるのか、また、残したまま利用してもらえる事業者が出てくるのかも含めて時間をかけてサウンディングして検討していきたいと考えている。

委員 P21に記載のある入院単価78,800円はかなり高い目標設定であると感じた。在院日数の短縮なども必要かと思う。説明のあった、たからづかモデルの効果や出口戦略に興味を持っている。民間の介護施設との連携などをしっかり行っていく必要がある。特養について、現在満床状態という認識もあると思うが、介護認定事業者の間では、最近申込者が減ってきているという話が出ている。宝塚は比較的介護施設が集まっているという点に強みがある。介護施設のショートステイやサ高住を活用することなど、たからづかモデルの中にこういった強みを活かしていくような方向性がもう少し出てきてもいいと感じている。また、新たに出てきた福祉の拠点について、あの場所に入所施設は無いので、どのように絡めていくか今の考えはあるか。

事務局 たからづかモデルは森市長就任後検討を始めたものであり、新病院の基本計画を一旦止めた事情もあり、まずは新病院の計画に影響することを優先して検討してきた

経緯がある。ご指摘の民間介護施設などとの連携は今後深めていきたいと考えている。一旦、今年度末にとりまとめるが、検討が終わるわけではない。次年度以降検討すべき事項を整理し、担当する部署も明確化する予定であり、今後検討を深めていきたいと思っている。

委員 令和 8 年度予算の稼働率 89%は、たからづかモデルが反映されていない数字という理解でいいか。

事務局 たからづかモデルは令和 14 年度の新病院開院に向けた議論として検討を進めているため、令和8年度予算には反映されていない。

委員 健康センターの建物で休日歯科と障害歯科診療を行っている。移転については早めに情報共有をお願いしたい。

委員 P28の小児科関係の内容について、入院手術や医師の数が足りないなどという現状課題がある。また、児童精神などももちろん課題として認識しているが、急性疾患の患者が市外に流れているという大きな課題がある。そのあたりを今後考えていくことがあるのか。周産期についても、産科を標ぼうしないのに市内産科とどのような連携をしていくのか。

事務局 小児科の現状としては、神戸大学や兵庫医大に派遣をお願いしていたが、先生がいないということを言われた。今後は、阪大から派遣してもらうことで調整している。阪大は今後も入局者はいると聞いている。引き続き医局連携して確保策に務めたいと考えている。

産科については、中途半端に当院が関わるようなイメージでは無い。来年度から来ていただく 3 名の先生は産婦人科医会や婦人科医会と繋がりがあると聞いているので、市内 3 クリニックの先生方も含めて今後連携を深めていきたいと考えている。

## 5. その他

委員 #7119 に以前電話した。様子を見てかかりつけ医に行ってほしいと返答をいただき、救急車利用はしなかった。病院が認識している通り、救急車の件数が減っているのではないかと思う。また、市立病院へのアクセスについて、宝塚駅からのバスが 2 時間に 1 回しかない。今後、シャトルバスの運用もご検討いただきたい。

昨年に、全室個室の必要性について意見した。そこについて今回反映されているようなので嬉しく思う。ダビンチのことも触れられていたが、市立病院の強みは何なのか今後も追及してほしい。災害拠点病院としても指定されているが、新しく建てる病院はシンプルなものにしてほしいと思う。

## 6. 閉会（難波事業管理者ご挨拶）